

2020 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	女性心理支援専門職のキャリア発達に関する基礎的研究 ー複線経路等至性モデリング(TEM)を用いた質的研究ー
キーワード	① 女性心理支援専門職、②キャリア発達、③複線経路等至性モデリング(TEM)

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏名	モモセ リョウ 百瀬 良
配付時の所属先・職位等 (令和2年4月1日現在)	昭和女子大学 生活心理研究所 助教
現在の所属先・職位等 (令和4年7月1日現在)	帝京平成大学 健康メディカル学部 心理学科 講師
プロフィール	自殺者数が3万人を上回りうつ病、過労死などがある現実を目の当たりにし企業勤務から心理支援職へとキャリアチェンジをしました。メンタルヘルスや発達障害者支援などの臨床に従事し15年が経過し、現在は、臨床も継続しながら大学で公認心理師養成に携わっております。研究では、成人期以降の女性を対象に個人のライフキャリアと社会的キャリアとの相互作用の観点から生涯発達を捉えることを大きなテーマとして、「親としての発達」「心理支援職のキャリア形成」等の研究を進めております。企業勤務経験、臨床経験を活かした心理支援職養成に加え、これらの研究で得た知見を学生たちへの充実したキャリア教育にも役立てていきたいと考えております。

1. 研究の概要

2018年、心理支援に関する初の国家資格である「公認心理師」が誕生し、心理支援職の社会的責任が高まるとともに専門性の向上が一層求められている。しかし、心理支援職には専門性向上の道筋が示された典型とされるキャリアモデルがない。高度な専門性を有する職でありながら、安定した社会的地位や待遇が保証されておらず、半数近くの者が非常勤職を掛けもちし、転職をかさねながら、各々が手探りで専門性向上を目指している。専門性の向上を果たすための体系的なキャリア教育が求められるが、わが国においては、その多様性、個別性の高さから、心理支援職のキャリア形成過程に焦点を当てた研究は進んでおらずノウハウがない。

本研究の特色、独創性の一つは、この手付かずになっている心理支援職のキャリア形成に焦点を当てた点である。心理支援職としてキャリアを継続している者を対象に、各々のキャリア形成過程について語ってもらうことを目的としたインタビュー調査を行い(図1)、インタビュー内容を文字化したものをデータとし、キャリアといった時間軸を持つ質的なデータを分析する方法(複線経路・等至性モデル(Trajectory Equifinality Model: TEM))を用いて分析を行った。この分析方法を用いたことも本研究の特色の一つである。

研究協力者のキャリア形成過程を個別に時系列の図(TEM図)に起こし、そのキャリアを継続する過程で誰もが通る経験過程(必須通過点・等至点)や、その過程で獲得したと考えられ

る心理支援職のキャリア形成におけるコンピテンシーを検討した。

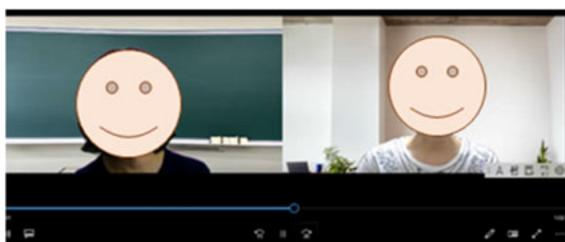


図 1: ZOOM によるインタビュー調査の様子 (右: 筆者)

2. 研究の動機、目的

筆者は、企業勤務からキャリアチェンジをし、育児をしながら心理支援職としての職務をスタートさせた。非常勤職を掛けもちする雇用形態で、社会制度を利用することもできず、1年更新の仕事の掛けもちし、研修や学会参加費などを捻出しながら、可能な限り現場経験を積んだが、この時期は、このような働き方で、専門性を身に付け、向上させることができるのかと不安を抱いていた時期でもあった。しかし、振り返ってみると心理支援職の働く領域は医療から教育、福祉、産業、司法と幅広く、時に領域をまたいだ臨床経験を積み、それぞれの領域に必要な技能を身に付けることや、その中で自身の適性を見極めること、ライフイベントを経験しながら、自分なりのキャリア構築のペースを知ったりする過程そのものが有意義な経験となっていたと考える。このような体験過程を実証的に示すことは、典型的なキャリアモデルのない心理支援職のキャリア教育において有意義な知見となると考え、敢えて個別性の高い多様なキャリア形成過程そのものに焦点を当てた基礎的な研究を計画し、これらのキャリア過程で得ていたものが何であったかを探索的に捉えることを目的とした。

3. 研究の結果

本研究における面接調査協力者のうち、15年以上の臨床経験を持つ対象者3名のキャリア形成過程についてのインタビューデータを、複線経路・等至性モデル (Trajectory Equifinality Model: TEM) を用いて分析を行った (図2)。その結果、次のような心理支援職のキャリアモデルが見られた。

自身が寄って立つ心理臨床ができる職、自身の持ち味を活かせる職を厳選し、「非常勤職を柔軟に組み合わせフレキシブルにキャリア構築するキャリアモデル」、「基幹勤務先での継続的な就労を軸に、そのほかの非常勤職も兼務するキャリアモデル」、セカンドキャリアとして心理支援職に従事し、ライフイベントからワークキャリアへ「ライフキャリア全体の重心を徐々に移行させながら構築するキャリアモデル」など、それぞれ異なる働き方、経路を辿っているものの、自身の専門家としての手法やスタイルを明確に持ち、心理支援職としての確固たるアイデンティティのもと、ライフキャリア全般を調整しながら、主体的に心理支援職としてのキャリアを継続している様子を捉えることができた。

さらにその過程には、「経験不足を抱えながらの勤務」「未熟さを埋めるための研鑽」「人の心への強い関心」「自分の持ち味を活かす臨床現場」「人間関係による支え」「家族による支え」「心理支援職としてのアイデンティティの確立」「熟達化したという感覚のなさ」「継続的な研鑽」「心理支援職の継続」といった共通する通過点を経ていることを捉えた。

近年、わが国のキャリアは、企業を中心に従来の日本型雇用慣行「従業員個人のキャリアは終身雇用慣行の下、組織に任せるもの」という認識から、個人のキャリアの多くは「自己責任の下に個人が主体的にデザインしていくもの」へと転換が求められている。心理支援職のキャリア形成過程は、後者のキャリア形成に近いものと考えられ、心理支援職にとどまらず、転換が求められるわが国の働くすべての人々に、キャリア形成の手法を提示することにつながる知見を得ることができたと考える。

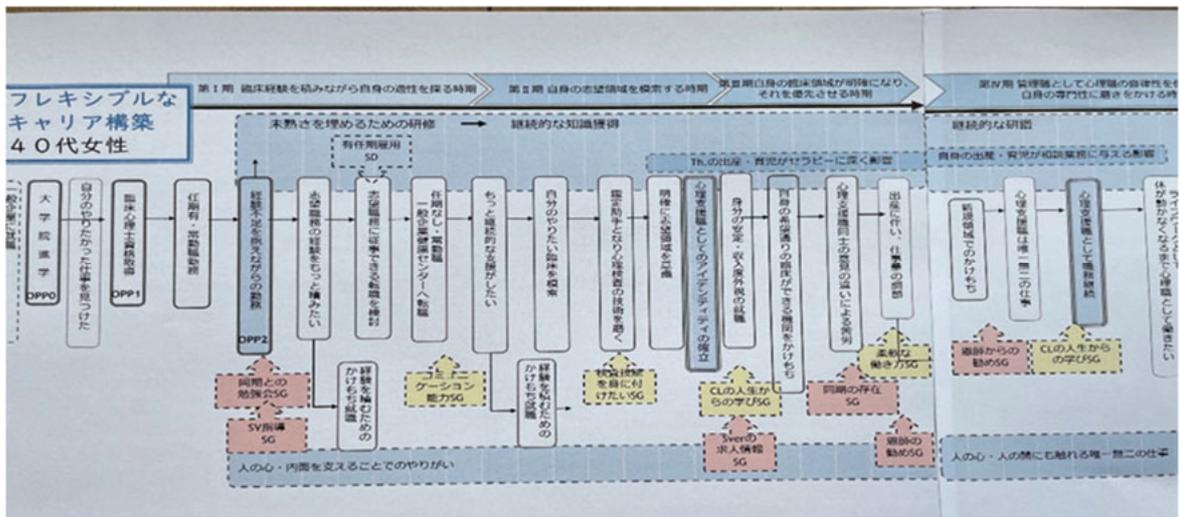


図2：40代女性心理支援職「非常勤職をフレキシブルに組み合わせる働き方」AさんのTEM図※
 ※本 TEM 図は、今後も改良を加え、学会誌へ投稿予定です。

4. 研究者としてのこれからの展望

心理支援職を対象とした研究は、これまで心理支援先進国である欧米の研究を追従する形で進められてきました。しかし、欧米とは異なる文化の中で、わが国固有の心理支援が求められ、心理支援職を対象とした研究もわが国独自の研究の視点が必要であると言われていいます。国家資格となったばかりのわが国の心理支援職を対象とした研究は、今後の基礎的な研究の積み重ねにより、欧米とは異なる研究の枠組みや土台が見えてくるものと考えております。従ってその中で私は、今後もこのような基礎的な研究活動を継続していきたいと考えております。また今後は、人生 100 年時代にわが国のすべての勤労者に主体的なキャリア形成が求められると考えられます。従って心理支援職のキャリアに関する研究は、心理支援職だけでなく、わが国のすべての勤労者へのキャリア教育に貢献できるものと考え、今後もこのような知見を蓄積することを目指して参りたいと考えております。

5. 支援者（寄付企業等や社会一般）等へのメッセージ

心理支援職のキャリア形成は、上述の通り、典型と言えるモデルがなく、半数以上が非常勤をかけもちしながら各々が手探りでキャリアを形成している現状があります。モデルがない中でもキャリア形成において、外してはならない本質は何か、どのようにキャリアパスを描いていけば専門性の向上を果たしながらキャリア形成ができるのか、本研究によってその一端となる有意義な知見を得ることができたと考えております。このような知見の蓄積が、既に心理支援職を担っている者、これから心理支援職を目指す者への体系的なキャリア教育に繋がっていくものと確信しております。心理支援職に従事する者すべてが、安心してそのキャリアを歩み、わが国の国民の心の健康維持増進に全力を傾けられるよう、今後も、心理支援職のキャリア形成について検討を継続してゆく所存です。

また、今回の研究を遂行するに当たって、貴事業団様よりご支援を賜り、インタビュー調査を実施し、質的研究法の一つである複線経路・等至性モデル(Trajectory Equifinality Model: TEM) を用いた研究活動を進めることができました。その結果、研究者として次のフィールドへの異動が叶い、研究を継続していく地盤を持つことができました。

改めまして、私の研究への多大なご支援に厚く感謝申し上げます。